

通し番号	4 4 4 5
------	---------

分類番号	21-11-11-02
------	-------------

(成果情報名) 大型直売所における野菜の品目別の地場産供給動向と改善策	
<p>[要約] 大型直売所の年間取り扱い金額を地場産と仕入れに分けて分析すると、野菜の地場供給率は85%と高いものの、「たまねぎ」については年間を通じた需要がありながら、地場産の供給期間が6ヶ月程度に限られる。そこで、トンネル早春どり栽培と貯蔵性の高い品種を用いた年内貯蔵出荷を行えば、2月下旬から12月にかけて地場産の供給期間の拡大が可能となる。</p>	
(実施機関・部名) 神奈川県農業技術センター・経営情報研究部	
連絡先	0463-58-0333

[背景・ねらい]

県内各地に大型直売所が設置され、顧客のニーズ対応と店舗の売り上げ拡大のため、品揃えの充実が求められている。そこで、直売所の過去の販売記録を分析し、作型の拡大や組合せにより、地場農産物の供給期間の拡大が可能な作目を検索する。

[成果の内容・特徴]

- 1 A直売所における一年間の野菜類の販売実績を分析すると、取扱品目数は218品目、販売合計金額は417,983千円、地場農産物の供給割合は85.6%である。地区外からの仕入れについて作目別に分析すると、仕入れ販売金額が2,000千円を超える品目は12品目、そのうち6品目が根菜類であるが、5,000千円を超える作目は「たまねぎ」と「トマト」のみである(表1)。
- 2 「たまねぎ」は4月から地場農産物の販売が増加し、6月上旬は地場産が100%を占めるが、9月以降は急減し、ほぼ100%仕入れ販売となる(図1)。「たまねぎ」は年間を通じて200千円/旬以上の販売がある定番品目であることから、極早生品種とトンネル栽培を組み合わせた2月下旬から4月までの早春どり栽培と、貯蔵性の高い品種を用いた年内貯蔵出荷を行えば、「たまねぎ」の地場産の供給期間を拡大できるものと考えられる。
- 3 そこで、「たまねぎ」の年間取扱量のうち、2月下旬から12月にかけての取扱量77,351kgをA直売所管内ですべて供給するために必要な栽培面積を算出すると183aとなる(表2)。

[成果の活用面・留意点]

- 1 A直売所における2008年3月から2009年2月の売り上げ実績をもとに分析した。

[具体的データ]

表 1 A 直売所における野菜の部門別の販売金額と地場産供給割合及び仕入れ金額が 200 万円を超える作目の仕入れ金額と仕入れ割合

部門	作目名	販売金額 (千円)	うち仕入れ販売 金額 (千円)	仕入れ割合 (%)	地場産供給 割合 (%)
	部門小計	105,634	22,581	21.4	78.6
根菜類	にんじん	15,774	3,719	23.6	76.4
	だいこん	12,750	2,573	20.2	79.8
	ばれいしょ類	11,831	4,632	39.2	60.8
	しょうが	7,116	3,735	52.5	47.5
	にんにく	4,878	2,377	48.7	51.3
	部門小計	139,309	17,290	12.4	87.6
葉菜類	キャベツ	15,296	2,254	14.7	85.3
	たまねぎ	10,357	5,705	55.1	44.9
	レタス	9,195	2,150	23.4	76.6
	部門小計	173,040	20,088	11.6	88.4
果菜類	トマト類	64,858	5,171	8.0	92.0
	なす類	13,432	2,656	19.8	80.2
	ピーマン	5,838	2,435	41.7	58.3
合 計		417,983	59,959	14.3	85.7

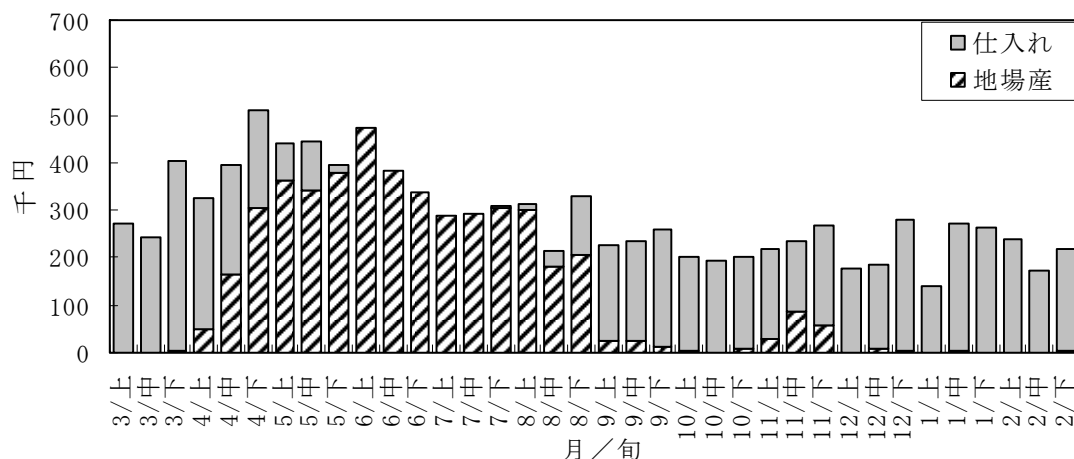


図 1 たまねぎの月別、旬別の地場産と仕入れ別の販売金額の推移 (2008.03~2009.02)

表 2 たまねぎの 2 月下旬から 12 月の取扱数量を地場産で供給するための試算

年間取扱数量 ^{z)} (kg)	2月下旬~12月 の取扱数量 (kg)	平均収量 ^{y)} (kg/10a)	栽培面積 (a)
87,335	77,351	4,230	183

z) 出荷 1 袋あたり 1 kg 入りとして算出。

y) たまねぎの平均収量は、野菜指定産地における全国平均値を用いた。

[資料名] 平成 21 年度試験成績書 (経営情報)

[研究課題名] 多様な農産物流通販売に関する調査研究

[研究期間] 平成 21 年

[研究者担当名] 鈴木美穂子